

意見提出者	株式会社ニーモニックセキュリティ
1. 項目	個人認証手段の見直し
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	自分が自分であることの証明方法としてパスワード/暗証番号が使われていますが、文字と数字しか使用できないため殆どの利用者には安全には使いこなせていないというのが現実です。この本人認証が困難であり且つ脆弱であるという状況はICT利活用を大きく阻害しています。
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	—
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p><提案></p> <p>多くの利用者には安全に使いこなすことのできていないパスワード/暗証番号の問題について、官民の衆知を集め「アナログ空間の署名捺印のように記憶力の強弱を問わず老若の誰にでも使いこなせる簡便な電子的本人認証手段」を国民に提供する手立てを講じることが必要と考えます。</p> <p><理由></p> <p>デジタル空間ではパスワード/暗証番号に一切頼らずに本人認証を行うことは考えられません。トークン照合あるいは生体照合を使う場合であってもパスワード/暗証番号は必ず併用しなければならない共通必須要件です。PKIによる電子署名や証明書を利用する場合であっても、その承認行為ないし活性化行為として必ず本人のパスワード/暗証番号の入力が求められます。</p> <p>それではパスワードを巡る現実はというと</p> <p>サービス利用者側の立場で見ますと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に覚えられるパスワードは簡単に破られることが知られています。ところが、破られない長大な難解パスワードを幾組も覚えていられる人は稀です。 ・多くの人があつないし少数のパスワードを多くのアカウント・口座に使い回しています。ところが、銀行の基準ではキャッシュカードの暗証番号を携帯電話や他の用途にも使い回すのは過失に準ずるものとされています。

・使い回しを避けるとメモ/手帳への依存しか選択肢がありません。ところが、銀行の基準では屋外での暗証番号記載メモ/手帳の携行は【過失】であり、キャッシュカード上に暗証番号を記載すると【重大な過失】との扱いすら受けることになります。

サービス提供側の立場から見ますと

・文字パスワードシステムの調達コストは無料に近く導入コストも非常に安いといえます。しかし、強固なパスワードを強制、更に頻繁な変更も実施すると失念対策で巨大な費用が発生します。

・パスワード失念対策の費用を抑制するには（１）メモ/手帳依存を許可/黙認する、（２）業務パスワードの私生活での使い回しを許可/黙認する、或いは、（３）簡単に破られるが忘れ難い脆弱パスワードの利用を許可/黙認すればよいのですが、どのケースであってもセキュリティは無惨なまでに犠牲になってしまいます。

悪意の第三者が他人のアカウントに難なくアクセスすることを許すような状況が放置されるのは刻一刻肥大化する時限爆弾の上で暮らすようなものです。健全で持続的なICT利活用は絵に描いた餅に終わりかねません。

現在のパスワード/暗証番号の悩みは選択肢が文字数字しかないことに大きく由来します。文字数字に加えて画像など全ての視覚対象（将来的には聴覚・触覚対象も）を扱えるパスワード拡張方式による問題解決の可能性について、更には、こうした拡張方式によるシングルサインオン方式個人認証サービスの可能性について、重点施策の実施に並行して、望ましくは先立って、検討されることが望ましいと考える次第です。